

◆ 第60回 日立市民音楽祭

「第60回 日立市民音楽祭」(日立市民音楽連盟主催)への出演が迫ってきました。
今回の演奏曲は従来の「OPERAの合唱曲」の領域を外れ、「Musical」からの合唱曲《West Side Story》Medley を演奏します。私たちにとっても新たな領域への挑戦となります。若干の演技も加えての演奏で、ひたちオペラ合唱団の芸域の広さをアピール致しましょう。

- (1) 日 時： 2024年11月10日(日) 10：30～16：00
(最後まで他団体の演奏を聴いてみましょう！)
- (2) 場 所： 日立シビックセンター 音楽ホール
- (3) 出演時間： 14：55(待機) 15：02～15：09(演奏時間)
- (4) 演 奏 曲： Musical《West Side Story》Medley より(抜粋)
指揮：山館 冬樹 ピアノ：湯本 景子
Sop.Solo：大川 明日香
- (5) 事前練習：(1) 11/ 3(日) シビックセンター 17：00～19：30(衣裳付き)
(2) 11/10(日) 助川交流センター 4Fホール 13：00～13：45(衣裳付き、集合厳守)



◆ 第2回「オペラでよかっぺ 歌でつなぐオペラリレーコンサート」

第2回「オペラでよかっぺ 歌でつなぐオペラリレーコンサート」が開催されます。
ひたちオペラ合唱団も全面的に協力し、主要メンバーとして出演します。

- (1) 日 時： 2024年12月15日(日) 13：00(開場) 14：00(開演) 15：30(終演)
- (2) 場 所： 日立シビックセンター 音楽ホール
- (3) 入場料： 一般：1,500円 25歳以下：500円
- (4) プログラム：オペレッタ《こうもり》より
- (5) 出演者： 音楽監督・指揮：豊原 奏
Eisenstein：黄 在麒(ファン ジエギ)(Bar)
Rosalinde：館野 真由花(Sop) Orlofsky：鈴木 望(Alt)
Adele：薄井 美伽(Sop) Falke：高木 太郎(Bar)
Alfred：永井 文秀(Ten) Frank：富岡 靖夫(Bar)
Ida：大川 明日香(Sop)
合唱：ひたちオペラ合唱団
オペラでよかっぺユース合唱団 オペラでよかっぺ子ども合唱団
アンサンブル：オペラでよかっぺアンサンブル
演劇：劇団コミュニケーション
- (6) その他： 打上げ懇親会(主催：シビックセンター) 17：00～18：30



今後のスケジュール

月 日	時 間	会 場 ()は予定	指揮	ピアノ	内 容
11/ 3(日)	17:00～19:30	シビックセンター 第2音楽室・音楽ホール	杉原	湯本	市民音楽祭 事前練習 衣裳付き
11/10(日)	13:00～13:45	助川交流センター 4Fホール	山館	湯本	市民音楽祭 事前練習
	14:55～15:09	シビックセンター 音楽ホール	山館	湯本	市民音楽祭出演
11/17(日)	17:00～19:30	大久保交流センター 4F会議室	杉原	阿部	《こうもり》他
11/24(日)	17:00～19:30	大久保交流センター 4F会議室	山館	湯本	
12/ 1(日)	17:00～19:30	大久保交流センター 4F会議室	山館	阿部	
12/ 8(日)	9:30～11:30	シビックセンター 音楽ホール	豊原		オペラリレーコンサート練習
12/14(土)	(後 報)	シビックセンター 音楽ホール	豊原		オペラリレーコンサートGP
12/15(日)	(後 報)	シビックセンター 音楽ホール	豊原		オペラリレーコンサート本番
12/22(日)	17:00～19:30	大久保交流センター 4F会議室	杉原	湯本	「合唱ワークショップ」曲
1/12(日)	17:00～19:30	(大久保交流センター 4F会議室)	山館	阿部	
1/19(日)	17:00～19:30	(大久保交流センター 4F会議室)	杉原	湯本	
1/26(日)	17:00～19:30	(大久保交流センター 4F会議室)	山館	阿部	

私が訪ねた世界のオペラハウス 第62回

ウィーンのカルルマン ～ウィーンその13～

中川 幸雄

カルルマン(Emmerich Kalman 1882-1953)は私の特に好きなオペレッタ作曲家です。ブダペストのハンガリー国立オペレッタ劇場前にはその座像が燦然と輝いています(会報145号)。

カルルマンはハンガリーの Siofok 出身でその生家は記念博物館になっています(会報172号)。この Siofok にも座像がありますが生家の博物館ではなく町の中心の広場にありますが=町の英雄です。1908年にウィーンに移り約30年間暮らした後、1938年にナチスを避け米国に渡り約10年間の米国生活の後パリに移り、そこで亡くなっています。

彼はハンガリー人ですが活躍の場はウィーンであり、代表作《チャールダッシュの女王》や《伯爵夫人マリッツァ》にはウィーンを彷彿とさせる場面や曲がいくつもあります。

30年もウィーンに住んだのだからその痕跡があるはずと調べてみるとカルルマンが1930年から39年まで住んだ建物が、現在、芸術文化に関連する団体事務所と音楽関係の学生寮になっていることが分かり今年の6月のウィーン訪問時に訪ねてみました。

地下鉄6号線の VolksOper 駅のすぐ北隣の Nussdorfer Strasse 駅から37Aのバスで15分ほどの Cottagegasse 下車です。地図を見れば地下鉄駅の目の前の道路がウィーン有数の主要道路とわかるのに、郊外ののんびりした雰囲気と予想していた私はその喧噪さに戸惑いました。

バスを降りた Cottagegasse は緩やかな東斜面の緑多い閑静な高級住宅地で、その中でも Kalman の旧住居は周辺の住居の数倍はあるひときわ目立つ大きな建物でした。「プライベート」な建物なので中には入れませんが、出入りしていた学生と思われる女性に声をかけてみればよかったと反省です。門柱の銘板にはここにカルルマンが住んでいたとのドイツ語表示がありました。

もう1か所はウィーンの中心部 Paulanergasse12にあるアパート。カルルマンが1912年から1923年までの11年間住んだところで今年の6月から8月までの県北学習センターのウィーン講座を担当された石井萌加先生から教えていただきました。地図で見ると6月のウィーン行きで私がストリートピアノを弾いた MozartPlatz から150mほどの距離で見逃したのは残念でした。来年1月に予定している次の訪問時にはぜひ訪れるつもりです。

ウィーンには有名な音楽家の墓地が集まった中央墓地があります。ここにはシュトラウス、ベートーベンなど著名な音楽家の墓地が集中している区画32Aがあります。実はカルルマンの墓もこの中央墓地にあるのですがそれは隣の区画31Bであり、かつ一番反対側で普通は見落とします。これは建立時期や土地の入手の都合など実務的な原因によるものとは思いますが私にはこのハンガリー出身の作曲家を一人仲間はずれにしているように思われて寂しく感じます。そういえば日本ではカルルマンのオペレッタが演奏される機会が少ないですね。墓石にはさみし気なエンジェルが寄り添って慰めているかのようです。



カルルマン



カルルマンのウィーン居住
(1930-38)建物のひとつ



中央墓地のカルルマンの墓

翔歌碧空

11月、霜月(しもづき)。November (英)、novembre (伊)。名前の通り、「11月」の名前を聞いたとたんに急に冷えだし、紅葉の便りを聞くようになった。とは言え、台風21号が南西諸島に接近し、日本本土にも温帯低気圧となって接近し、大雨をもたらす可能性が大きいとのこと。やはり、異常気象の状況は相変わらずだ▼読書の秋の真っ只、何を思い出してか、学生時代に装丁の美しさと、挿絵に魅かれて衝動買いして読んだ、谷崎潤一郎の「新々訳 源氏物語」を引っ張り出して読み始めた。原文の冒頭「いずれの御時にか、女御更衣あまたさぶらいける中に・・・」以下の現代語訳を、何とか頑張って全巻(全10巻+別巻1)を再度読み切りたいと思う。

(Hm)